

第 36 回 奈良透析学術総会が、

2 月 5 日（日）に奈良県文化会館

にて開催されます。

当院の、臨床工学科 二神徳明 技

士・垣内寛子 技士が学術発表致

しますので、ご紹介します。



「奈良県医師会透析部会」
第36回奈良透析学術総会 プログラム

平成24年2月5日(日) 12時から
於、奈良県文化会館2F

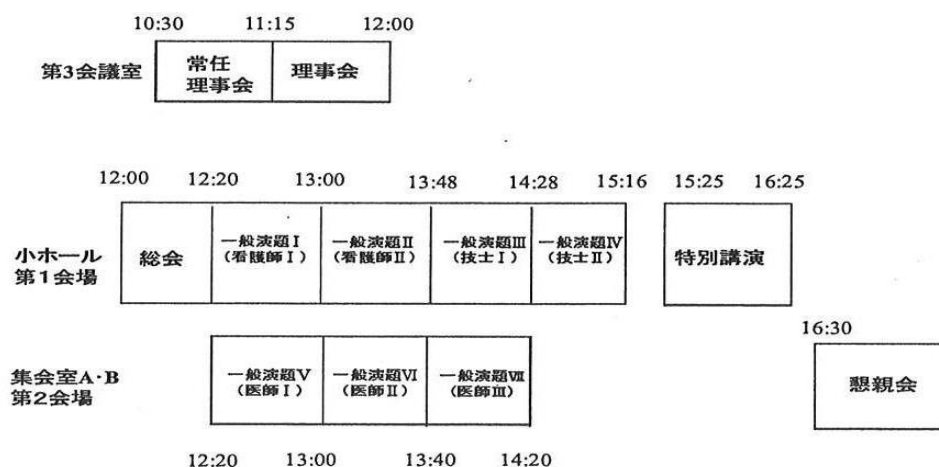
プログラム

総 会 12:00 (小ホール)

学術集会 12:20 (小ホール, 集会室A・B)

懇 親 会 16:30 (集会室A・B)

タイムスケジュール



参加者へのお願い

- 参加費は 2,000 円 (医師は 3,000 円) です。受付でお支払い下さい。正会員および地方会員 (医師) は、年会費 5,000 円を別にお支払い下さい。
- 一般演題の発表時間は6分、討論は2分です。発表時間を厳守して下さい。
- スライドは、PCでの発表となります。
- 演者は、発表時刻が前後することがありますので、発表予定時刻の30分前までに受付をすませて、スライドの試写を行ってください。
- 座長は、開始予定時刻の15分前までに受付をすませて、リボンをお受け取り下さい。
- 本会は、(社)日本透析医学会認定制度における地方学術集会、日本透析医学会生涯教育講座ならびに日本医師会生涯教育講座として認定されています。医師の参加者は参加証をお渡ししますので、当日受付でお受け取りください。

予稿集における(D), (T), (N), (CW), (O)は発表者の職種 (医師, 技士, 看護師, 介護福祉士, 栄養士他) を表します。

(第36回 奈良透析学術総会・一般演題抄録)

領域 (症例)

拡張型心筋症(DCM)による透析時低血圧に対し pre-HDF が著効した一症例

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ プラザ透析センター²⁾ 内科³⁾
○ 二神 徳明 (T)¹⁾ 大西 順也¹⁾ 村岡 進広¹⁾ 野口 幸¹⁾ 渡邊 美智子²⁾
田宮 正章^{2) 3)} 吉岡 伸夫^{2) 3)} 高比 康臣³⁾

【はじめに】維持透析導入前より DCM を発症し透析療法に難渋した患者に、pre-HDF を導入することで、収縮期血圧と除水達成率が改善し良好な経過を辿った症例を経験したので報告する。

【症例】70 歳代女性。既往歴は高血圧、DCM である。2002 年に DCM を発症、翌年 IgA 腎症で維持透析となった。2010 年 12 月頃より透析時低血圧、さらに除水困難による肺うっ血が出現したので 2011 年 3 月に pre-HDF を導入した。透析開始 1 時間では有意な差は認めなかったが、2 時間後は $109 \pm 17 \text{ mmHg}$ vs $127 \pm 15 \text{ mmHg}$ ($p < 0.001$)。3 時間後は $106 \pm 10 \text{ mmHg}$ vs $123 \pm 17 \text{ mmHg}$ ($p < 0.001$) と改善した。除水効率は $\text{HD}95.4 \pm 1.3\%$ vs $\text{pre-HDF}98.1 \pm 1.6\%$ に改善され ($p < 0.001$)、CTR が 70.2% から 60.3% まで低下、心エコーで EF24% から 30% と壁運動が改善した。さらに、KT/V が 1.5 から 1.82、clear space が 73.0% から 79.1% となった。

【結語】Pre-HDF は心不全で循環動態が不安定な透析患者に良好な治療を行える一つの手段と考えられた。

(Key Words) 拡張型心筋症 pre-HDF 透析時低血圧

(代表連絡者) 二神 徳明

(所属住所) 奈良県奈良市六条町 102 の 1

(電話) 0742-35-7680

(ファックス) 0742-35-7684

(E-mail) m_noguchi@nishinokyo.or.jp

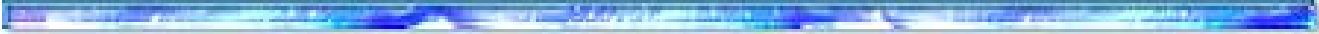
一般演題 IV (技士 II)

14:28 ~ 15:16 (小ホール)

座長 熨斗 正和 (高清会高井病院)

山下 和久 (康成会藤原京クリニック)

17. 当法人におけるリスクマネジメント
-インシデント・アクシデントレポートの分析-
医療法人 康成会 園田 直樹 (T) 他
18. 代用血漿製剤を併用した単純血漿交換における施行中の副作用の検討
公益財団法人天理よろづ相談所病院 臨床病理部 CE 部門
橋本 武昌 (T) 他
19. 多用途透析用監視装置 DCS-100NX 並びに透析通信システム Future
Net Web⁺ の使用経験
医療法人 康仁会 西の京病院 西大寺クリニック 臨床工学科
垣内 寛子 (T) 他
20. 特定積層型ダイアライザーAN69 膜の臨床使用評価
暁明館西九条クリニック 大塚 俊秀 (T) 他
21. 当院維持透析患者における rHuEPO 製剤からエポエチン β ペゴルへの
切替時投与量に関する検討
医療法人 康成会 星和台クリニック 藤瀧 英樹 (T) 他
22. 食事指導管理システムの構築
医療法人桜翔会 中辻医院 透析室 尾崎 実樹男 (T) 他



多用途透析用監視装置 DCS-100NX 並びに透析通信システム Future Net Web⁺の使用経験

垣内 寛子¹⁾ 細木 和也¹⁾ 野口 幸¹⁾ 岡村 修²⁾ 今井 裕子²⁾ 渡邊 美智子²⁾
吉岡 伸夫²⁾ 高比 康臣³⁾

西の京病院 西大寺クリニック 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾ 内科³⁾

【はじめに】

当院は 2011 年 10 月 1 より西の京病院 西大寺クリニックを開院し、日機装社製の多用途透析用監視装置 DCS-100NX・透析通信システム Future Net Web⁺を導入したので報告する。

【経過】

現在 患者総数 17 名で 1 日のスタッフ(看護師+臨床工学技士)3~4 名、常勤医師 1 名で業務を行っている。DCS-100NX は従来機と異なり自動化ユニットが内蔵されプライミングから返血までの工程をアシストする Hybrid D-FAS 機能によりヒューマンエラーが減少した。Future Net Web⁺で患者情報を一括管理することにより透析中の血圧や運転状態を観察することができた。さらに、コンソール画面で患者の愁訴処置の入力や血液検査結果・体重データが参照できるようになりベッドサイドで患者指導を行えるようになり、導入から現在まで安全かつスタッフの業務低減が行えている。

【まとめ】

DCS-100NX、Future Net Web⁺の導入は業務を軽減し、安全機能が向上された。しかしながら実際に管理操作を行うのはスタッフである為、今後これらの機能を最大限発揮できるように日々の研鑽が必要である。

